

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第5回

1. 実施日

令和4年6月11日（土） 1・2限

2. 場所

1棟多目的教室

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 山中脩平 中村啓介 三嶋千代子 藤原久美子

5. 内容

本日の目標の確認

研究報告書 Ver. 1 の内容を Ver. 2 に落とし込み、研究報告書 Ver. 2 を完成させる。次回、大阪大学の先生や大学院生の方々に指導していただくので、そのための準備をする。Ver. 2 の3「具体化されたRQを明らかにするための調査」まで記入して、助言をいただきやすくする。

研究報告書 Ver. 2 の作成

- ・Ver. 1 の2「当初のRQ（リサーチ・クエスチョン）を明らかにするための調査」で調べたことをもとに、Ver. 2 の1「研究の動機・問題の背景」に落とし込む。
- ・Ver. 2 の1「研究の動機・問題の背景」で書いた内容をまとめると、論文の序論になる。
- ・序論を踏まえて、そこから導き出せる具体化されたRQを Ver. 2 にまとめる。Ver. 1 の調査で明らかになっている問題に対してのRQにする。

6. 学び

研究を進めていくにあたり、研究報告書 Ver. 1 で調査した内容を研究報告書 Ver. 2 にどのように展開していくのかを学んだ。5月21日の京都橘大学乾先生の講義資料も提示して、「研究の動機・問題の背景」の書き方を振り返った。

7. 次回への課題

研究報告書 Ver. 2 の内容を理解し、説明できるようにしておく。大阪大学の先生や大学院生の方々に指導をいただく際に、受け身の姿勢にならないようにさせたい。研究の進め方やRQの立て方について、自分たちから考えを示せるように準備をさせておく必要がある。

8. 授業の振り返り

チームによって、研究の進度に差がある。教員が質問や助言をしたりしながら、研究が進むように促した。進みにくいチームに対してどのようにアプローチしていくかが課題である。